# 15 1日に，119番通報で救急車が出動する回数

- 1年間では，国民23人に1人が救急車で搬送されている。
- しかし，救急搬送のうち，2人に1人は軽症者だ。

消防庁統計

## ▶約1万7000回（5.2秒に1回）

1931年に大阪で日本赤十字社が自動車を傷病者の搬送に使用したのが，日本における救急車の始まりとされている。現在のように救急車が全国の消防署に配備され，24時間態勢で救急出動が可能になったのは1963年の消防法改正以降のことで，現在は，全国に約6,200台，人口約2万人に1台の割合で救急車が配備されている。2016年の救急車の出動件数は約621万件，1日平均では約1万7000件，1年間に全国民の23人に1人が搬送されたことになる。

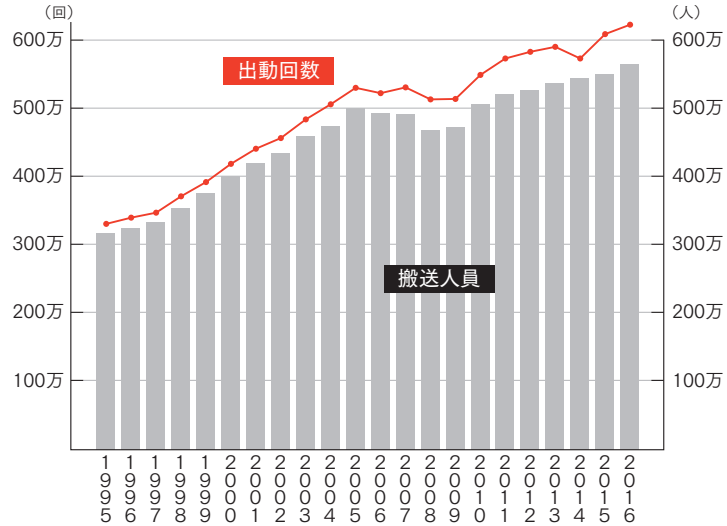
出動件数を事故種別で見ると，50年前には交通事故がおよそ3分の1を占めていたが，交通安全対策の推進により，2016年にはそれが1割弱にまで減少し，現在は，急病が全体の3分2近くを占めている。年齢別の搬送人員の割合を見ると，65歳以上の高齢者が増え続けており，高齢社会と密接な関係があるようだ。

ただ，救急搬送の内訳を見ると，重症者は1割に満たず，初診医師が入院加療の必要なしと判断した軽症者が全搬送者の約半分を占めている。軽症者が安易に救急車を要請するケースが多いのが，全国どこの自治体でも悩みの種となっている。「歯が痛いから」「水虫がかゆいから」「シャワーの水が耳に入ったから」という理由も信じがたいが，「子どもが膝をすりむいたが，救急車で行けば優先的に治療してもらえるから」とか「病院へ行くのにタクシー

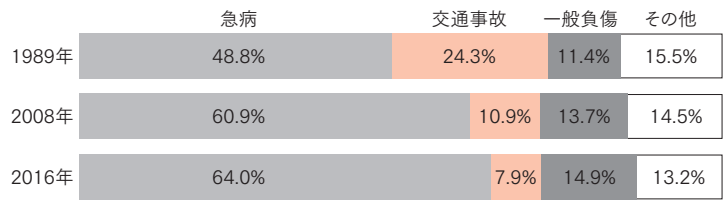




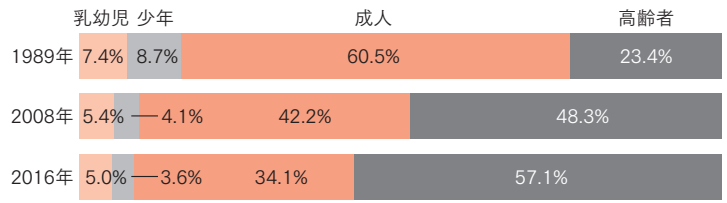
### ● 救急出動件数と搬送人員の推移 〈資料：消防白書〉




### ● 事故種別救急出動の割合 〈資料：消防白書〉




### ● 搬送人員の年齢別割合 〈資料：消防白書〉




※乳幼児：6歳以下　少年：7～17歳　成人：18～64歳　高齢者：65歳以上

# E 日本の女子高生が1日にスマホを使う時間

- 中高生の必須ツールのスマホ，これにはどのような功罪が？
- スマホ依存が引き起こす健康障害とは？

## ▶6時間06分 デジタルアーツ調査

「時間なんてもうわからないほど触ってますw　いじらないのは寝るときくらいw　朝起きてすぐ触り始めて寝るギリギリまで触ってます（´・_・`）お風呂にも持ってきますw」

これはある女子高生のネットへの書き込みだが，情報セキュリティメーカー「デジタルアーツ」の調査によると，女子高生は1日あたり平均6時間6分，その1割以上は1日12時間以上スマホを使っているという。授業中もスマホを使うと答えた生徒は約50%，ノート代わりに黒板を撮影する場合もあるが，授業中でもLINEのチェックは欠かさない。

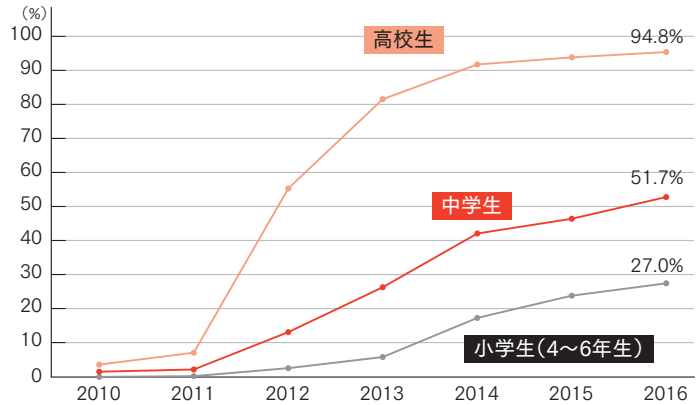
2016年の内閣府の調査では，高校生の95%，中学生でも52%は自分のスマホを持っている。小学生についても防犯目的や連絡用にキッズ用スマホや携帯を持たせる親が増えている。さらに，NPO法人e-Lunchの調査によると，2～6歳の幼児でさえ，その51%は日常的にスマホに触れており，スマホ使用の低年齢化が加速している。

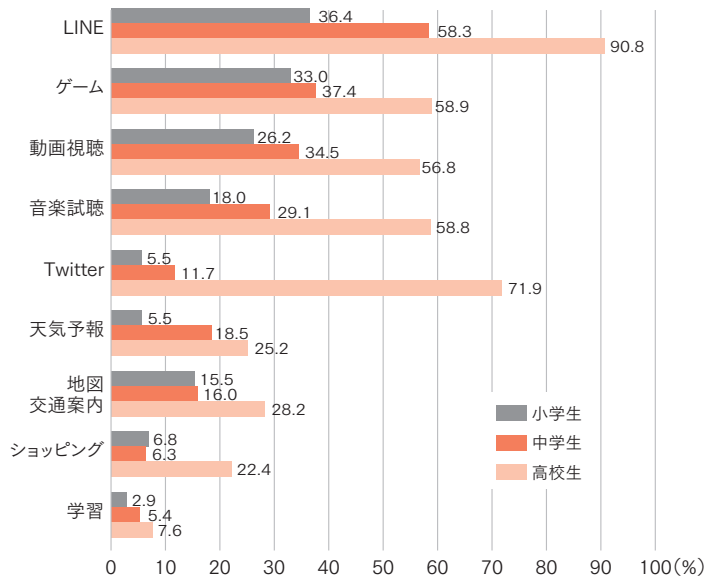
その是非はともかく，この現象は時代の趨勢だろう。ただ，スマホには，使い方を誤るとトラブルや犯罪に巻き込まれたり，日常生活に支障が出たりする危険性が潜んでいることも認識しておかねばならない。今や，中高生にとってスマホは友人との必須のコミュニケーションツールだが，メッセージを読んだら3分以内





● 子どもたちのスマホ所有率の推移 〈資料：内閣府〉




● 使用頻度が高いスマホアプリ（2015） 〈資料：デジタルアーツ〉